

# 令和3年度事業報告書 — 認知症型デイいこい・ほほえみ —

**テーマ：**自然災害や感染症対策により、入所者・利用者の安心・安全な望む暮らしの支援と地域住民と支え合う仕組みづくりを目指す

**サブテーマ：**利用者・家族にとって必要なサービスの安定した提供

## 1. その人らしさを重視し、安心して過ごせる場の提供

- ①職員が、それぞれご利用者一人一人の認知レベルの変化を見逃さず察知し、ミーティングの場で情報発信、情報共有することにより統一したケアに繋げることができた。職員間で、いろんなアイデアを出し合い模索しながら、ご利用者が安心して過ごせるよう一人一人に合わせたケアを実践できた。
- ②ご利用者のお好きなこと、得意なことをアセスメントし、個別にレク活動の提供を行った。また、いこいで対応するのが難しいご利用者の方を、認知症重度者は、ほほえみに移動していただいて対応するなど、空間を有効に活用し、ご利用者にはゆったりとした快適な環境作りに努めた。
- ③認知症検査の長谷川式スケールは、全利用者を定期的の実施することは難しかったため、認知症の進行が顕著にみられるご利用者や、ケアマネから依頼があったご利用者に対して実施した。認知機能のどの部分に変化がみられているか等、結果を職員間で把握しケアに生かすことができた。
- ④今年度は、いこいほほえみの職員が認知症実践リーダー研修を受講し、研修を通してチーム全体で認知症に対する理解を深め、ケアの質の向上に繋げることができた。受講職員が中心となり、他職員に働きかけることで、チームの課題解決に向けて全員が同じ意識で臨むことができたと思う。

## 2. 利用者の安心、安全な暮らしを支える

- ①コロナ感染予防については、朝の挨拶時などに感染状況や感染対策を具体的に説明し、アクリル板の設置やマスクの着用など繰り返し声掛け行うことで定着が図れた。防災については、定期的にマニュアルに沿った避難訓練を実施し、訓練の参加を通して意識付けが行えた。

- ②各委員会で得られた情報は、ミーティング時などで担当職員が発信し、職員間で共有することができた。  
特にコロナ感染対策については、変更がある度に家族にも随時お知らせを配布し周知していただくとともに、感染予防への協力を依頼した。

### 3. 利用者と家族の思いに寄り添った支援の提供

- ①ご利用者の日々変化する状態を細かく観察し、小さいことでもケアマネにこまめに連絡して、情報提供を行うことに努めた。ケアマネと密に情報交換をすることで、BPSD 軽減が図れるように、家族との連携を図りながら対応できた。
- ②家族が安心して在宅で介護できるよう、家族の思いをしっかりと傾聴し、時には具体的なアドバイスも交えながら、送迎時や連絡帳にてコミュニケーションを図ることができた。「いこい・ほほえみを利用するようになってから表情が明るくなった」等、感謝の言葉を頂くことも多かった。